

中央病院と徳大病院 地震想定 初の合同訓練



徳島大学病院に引き渡す負傷者の症状を説明する県立中央病院の看護師（左から2人目）

徳島市蔵本町

で連絡を取り合って受け入れを依頼。両病院をつなぐ連絡通路を使って、負傷者を引き渡す搬送訓練もした。

徳島市蔵本町の県立中央病院と徳島大学病院は7日、南海トラフ巨大地震を想定した合同災害救護訓練を両病院で初めて行った。医師や看護師ら約300人が参加し、負傷者の相互受け入れなど連携体制を確認した。

午後1時ごろ、大地震が発生したとの想定で実施した。両病院では、医師らが運び込まれた負傷者のけがの程度を確認して優先順位を決め、治療に当たった。負傷者が多くて対応できない場合には、互いにトランシーバー

午後1時ごろ、大地震が発生したとの想定で実施した。両病院では、医師らが運び込まれた負傷者のけがの程度を確認して優先順位を決め、治療に当たった。負傷者が多くて対応できない場合には、互いにトランシーバーと話した。（木村恭明）